

け出ては此處へ来て楽しんでよる。奉公人風情で妾狂ひする位や、どうせ帳面に無理の出来たアるのは當り前やろがナ。」

「そら自然そう成りますなア。」

「ところが其主人と云ふのが此番頭に具合ようチヨロまかされて、信用し切つてよるのやさかい、まア當分露見る氣遣ひは無いワ。」

「成る程……。」

「そしたとこが、此の家に甚い極道の息子が有つてナ……。」

「ヘーン……」



「……。」

「ア、手を止めたら氣の毒な。帳附けてや。」

「ヘエ〜……」



「……。」

「それが何にも知らん様な顔はしてよるけれど蛇の道は蛇や、チェーンと皆知つてよるね。」

「ハハ……」



「……。」

「ア、どうぞ帳附けてンや。」

「ヘエ〜……」



「……。」

「息子としてもやなア。親の亡い跡は自分の物になる金や。費消はれて氣持の良え筈は無いのやがなア……。」

「なアる程……」



「……。」



「……。」

「又自分の無理も諾かさにやならん時も有ると思ふ依てに、目を瞑つて辛抱してよるのや。」

「ハハハハ……」

「ハハハハ、どうや……。」

「何がでおます。」

「お前これ誰やと思ふ……。」

「さア誰方でおますやろなア……」

「此町内やで……」

「ハハア此町内で……。」